●〈臨床研究〉

当院における経口腸管洗浄剤 ピコプレップ®配合内用剤の使用経験

亀崎秀宏*

東金九十九里地域医療センター東千葉メディカルセンター 消化器内科

*Corresponding author: ugn29814@yahoo.co.jp

〔Key Words〕ピコプレップ®配合内用剤, 経口腸管洗浄剤

はじめに

経口腸管洗浄剤モビプレップ®配合内用剤はポリエチレングリコール電解質特有の味であり、溶解液として最大で2Lの経口投与を必要とする。一方で、ピコプレップ®配合内用剤はオレンジ風味であり、溶解液として300mLの経口投与で済む。1980年に誕生し70以上の国で承認されているが、本邦では2016年8月に販売開始となり、患者受容性の高まることが期待されている。当院での使用経験を報告する。

I. 対象と方法

当院では、経口腸管洗浄剤にモビプレップ®を使用し、腹痛・嘔吐などへの対応が行えるよう病院内で服用していただいている。今回、ピコプレップ®を導入するにあたり、外来では、1)看護師による事前説明に時間的制約があること、2)患者間で不公平感の生じる恐れのあることから、入院での内視鏡的粘膜切除術目的の患者に限定して行った。

今回の検討では、2017年7月より2018年3月までの間にピコプレップ®の使用に同意が得られた患者49例・担当看護師・検査担当医師を対象に、モビプレップ®との比較に関してアンケート調査を行い、検討を行った。

なお、ピコプレップ®の服用方法で特徴的なのは、2回に分割して服用するため排便が緩やかな点にある。服用スケジュールには2通りあり、1)前日夕方と前日深夜に服用し、当日午前中に検査を施行するか、2)前日夜と当日午前中に服用し、当日午後に検査を施行するかのいずれかである。今回の検討では、全て2)の前日夜と当日午前中に服用のパターンで行った。

II. 結果

患者の回答として多かったのは、飲み方がわかりやすい(69.4%)、飲みやすい(67.3%)、きれいになるまでに時間を要した(67.3%)、是非次も使用したい(32.7%)、できれば使用したくない(22.4%)、であった。使

用したくない理由としては、ピコプレップ®とは別に1,250mL以上の飲料水を就寝までに摂取しなければならないことや、夜間の断続的な排泄や、きれいになるまでに時間を要することが挙げられた。

看護師からの回答として多かったのは、説明に負担を感じなかった(93.9%)、きれいになるまでに時間を要した(53.1%)、であった。また、18.4%の患者で浣腸を追加している。

検査を担当した医師の回答は、内視鏡下に洗浄・吸引可能な濁りや便が残存していたという回答が77.6% (Color 1~3)、残便はほとんどない状態であったという回答が20.4%、残便により検査に支障があったという回答が2.0%であった。

III. 考察

ピコプレップ®は、刺激性下剤のピコスルファートナトリウムと塩類下剤のクエン酸マグネシウムの2つの異なる作用機序による瀉下作用により腸管洗浄効果を発揮し、300mLと少ない薬液量とオレンジ風味、および好みの透明な飲料2L以上(スポーツドリンク・具のない透明なスープ・透明なリンゴジュース・透明な色の炭酸飲料も可)を組み合わせた服用方法によって患者受容性を改善した薬剤である。

ピコプレップ®をポリエチレングリコール電解質製剤(モビプレップ®等)と比較した25の無作為化比較対照試験のメタ解析では、腸管洗浄効果(リスク比0.93, $P=0.07$)、ポリープ検出率(リスク比0.94, $P=0.37$)、腺腫検出率(リスク比0.88, $P=0.16$)で非劣性が示されている¹⁾。しかし、同メタ解析では、前処置に要した時間(腸管洗浄が完了するまでに要した時間)、大腸内視鏡検査に要した時間(内視鏡下に洗浄・吸引を要した割合)に関する検討がなされていない。われわれのアンケート結果では、前処置に時間を要した患者が多く、内視鏡下に洗浄・吸引を要した患者が多かった。複数の患者の円滑な診療という観点からは、ピコプレップ®を標準として使用することには障壁が大きいと考えられた。一方では、前述のメタ解析で、前処置完了度(リスク比1.08, $P<0.001$)、再処方許諾度(リスク比1.44, $P<0.001$)はピコプレップ®で有意に高かったとしている¹⁾。われわれの検討でも、患者からは好意的な回答が多かった。ピコプレップ®は患者受容性の点では優れていると考えられた。

また、前述のメタ解析で、有害事象(リスク比0.78, $P=0.004$)はピコプレップ®で有意に少なかったとしている¹⁾。安全性が担保されやすいことより、経口腸管洗浄剤を自宅で服用していただく場合には、ピコプレップ®が適していると思われた。また、ピコプレップ®を前日に2回服用した場合には、検査が午前中に

施行可能となることも含め、ピコプレップ®導入により患者・施設の事情に合わせた幅広い診療が可能となることが期待される。

おわりに

ピコプレップ®は洗浄力の点ではやや劣る印象があるが、患者受容性の点を考慮すれば選択肢の一つとして十分に考慮し得るものと思われた。

文 献

- 1) Jin Z, Lu Y, Zhou Y, et al : Systematic review and meta-analysis : sodium picosulfate/magnesium citrate vs. polyethylene glycol for colonoscopy preparation. Eur J Clin Pharmacol 72 : 523-532, 2016

〈カラーはp. 1に掲載〉

Experience in the use of PICOPREP® Combination Powder for Bowel preparation prior to colonoscopy

Hidehiro Kamezaki*

Polyethylene glycol-based solutions are some of the most common bowel preparation regimens used prior to colonoscopy worldwide. However, poor tolerability may prevent complete ingestion of the preparation and may hinder a patient's willingness to undergo repeat procedures. Sodium picosulfate/magnesium citrate (PICOPREP®) has been used in Japan since August 2016. PICOPREP® is a low-volume bowel cleanser that is naturally orange-flavored and is expected to improve patient tolerability. Results from a questionnaire survey showed that 67.3% of patients feel that PICOPREP® is easy to take. However, 53.1% of nurses recognize PICOPREP® requires longer times for cleansing, and 77.6% of doctors report impaired evaluation due to residual stool in the colon, which was actually only in limited amounts and could be suctioned. PICOPREP® appears to be slightly inferior in terms of cleansing power ; however, the improvement in patient tolerability deserves recognition.

Department of Gastroenterology, Eastern Chiba Medical Center

*Corresponding author : ugn29814@yahoo.co.jp